



スタッフの抱負 2025 年どれだけ成長できるかな



昨年末に設立した「安心と住まいのGメン」を軌道にのせること。目標は、協力事業所を全国で500社設置すること。また、公的機関（警察とか）との連携強化を図ることで、社会への貢献と影響力を持つ団体にする予定です。経営者としては、社員の成長と幸福度の爆上げ。そのためには厳愛の精神が必要な。



昨年は自身の心境の変化があった年でした。今年はその経験を活かして、さらに成長できるよう努力したいと思います。現在一番の課題は、時間の使い方が上手くできていないことなので、改善点を見つけて効率的に仕事を進められるようになりたいです。（岡村）



笑顔、感謝を忘れず毎日楽しんで仕事に取り組む。そして昨年はわからない事が多く、先輩達に聞いてばかりの一年目だったので、本年は聞く立場から聞かれる立場（頼ってもらう立場）になれるよう成長したいです。（渡辺）



本を読むことや文字を書くことが苦手なので、習慣化するために「1日1話、読めば心が熱くなる365人の仕事の教科書」と「読めば心が熱くなる365人の生き方」を読み、心に刺さった文を書き写すことを続けます。（関根）



昨年は窓の鍵交換から、フルリフォームまで携わりました。澤田さんのおかげで広報も軌道に乗りはじめました。本年はお客様のお家の空気をさわやかにできるような仕事をさせていただきたいと考えております。（大谷）



昨年は「北海道から埼玉に引っ越し」という大きな環境の変化があった年でした。環境に慣れず体調を崩すことが多かったので、とにかく健康に過ごしたいです。そして、仕事は学ぶことばかりなので、分からないことは「調べる」「質問する」をしっかりと行いたいと思います。（澤田）



以前は建築設計事務所を主宰し新築からリフォームまで幅広く行ってきました。これまでの経験を生かしお客様のお役に立てるようにまい進してまいります。よろしくお願いします。



毎日音読をします。1年後、記憶力や思考力が高まっていることを期待しています。音読用の書籍もありますし、新聞や雑誌の一部分を声に出すのも良さそうです。皆さんも一緒にいかがでしょう♪（松浦）



今年は時間の使い方を見直し、有意義に時間を持てるようにしたいと思います。読書をはじめとする学びの時間や、家の片付けや断捨離をして快適な住まいを作りたいと思います。また健康のため、歩く習慣を持てるよう努めようと思います。（西田）

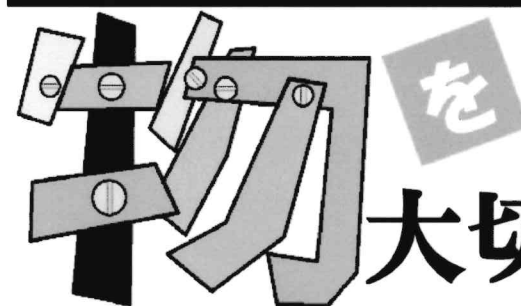
どうなの？
我が家の耐震

編集後記

豪雪地方の秋田県ですが、ここ数年は積雪量が少ないです。小さい頃は雪が降ると、兄と一緒に「かまくら」を作って、その中でかき氷を食べていました（コップに雪を入れてジュースを注いで食べるという、今思えばなんとも不気味なデザートです...）。そんな幼少期を過ごした私の2025年の抱負は『心に余白をつくること』。忙しい日々の中でも、人に優しくしたり、晴れの日には空を見上げられたりするような心の余白。そして自分を労う余白も残しながら、毎日を過ごしたいです。（秋田より 谷川）

安心するための耐震セミナー

2025年2月8日(土)10:30~12:00、当社会議室にて「安心するための耐震セミナー」を開催いたします。累計100件以上の耐震診断を実施してきた田口がわかりやすくお話しします。住み慣れた我が家で安心して暮らしていけるように、正しい知識をお伝えします。参加無料・事前申し込み不要(当日10:15から当社入口にて受付)。ご家族ご友人をお誘いあわせのうえ、ふるってご参加ください



何でも手に入る世の中
物の豊かさと心の豊かさは同じなの？
本当の豊かさを求めて、物を大切にしよう
人と人との出会いを大切にしよう



大切にしよう新聞

〒331-0802 さいたま市北区本郷町 1579 株式会社 田口住生活設計室 048-729-4517 tjs@homedr.info

謹

賀

新

年

～今年は昭和100年だ！～

能登の震災から始まった100年が終わり、新しい年が始まりました。皆さまはどのようにお過ごしでしょうか。今年は昭和100年にあたります。百年です。あつという間だと思われる方も多いのではないのでしょうか。平成生まれにとって、明治とか大正は、歴史の教科書に載っている年号くらいの感覚になっているのですね。

世界の100年企業の4割は日本

ところで“100年企業”は何社あると思いますか？それがなんと、3万7000社もあります。世界中の100年企業が8万社ですから、4割が日本企業なのですね。200年となると1340社で、世界の6割以上が日本の会社です。

100年前からある身近な商品はあるのだろうか？と探すと、食品系が多いですね。明治時代からの品が「三ツ矢サイダー」「カゴメケチャップ」「正露丸」「味の素」「ブルドックソース」「ライオンの歯磨き粉」など。大正からだ「森永ミルクキャラメル」「カルピス」「グリコ」「柿の種」。さらに「養命酒」は始まりが1600年ごろというのですから驚きです。埼玉の老舗系だと、川越の和菓子「亀屋」は1783(天明3)年創業、川島町にある「笛木醤油」は1789年創業。ほかにも、たくさんの老舗があるでしょうね。ちなみに、薄皮饅頭の「柏屋」が1852年創業、あんぱんの「木村屋」が明治1869(明治2)年創業ですから、埼玉はなかなかのものです。

百年続く企業や商品に共通するものは何だろうか

長寿企業や商品の共通項は『不易流行』ではないでしょうか。変えてはいけないものは変えない、変えるべきものは変える。一時の流行に左右されて企業の在り方や商品を変えるのではなく、ブレることのない信念をもとに、時代の変化に対応していくことが大切なのだろうと思います。

家づくりは、流行によってコロコロ変わるものではありませんから、まさに「不易」が大切だろうと考えます。

では、当社にとっての不易とは？

『住む人の人生から考える家づくり』だけは変えてはいけないと思っています。流行の家はありますが、それが住む人にとって必要なければ提案も工事もしないという姿勢を本年も貫いていきます。

一般社団法人安心と住まいのGメン

さて、リフォーム詐欺や悪徳リフォーム業者から生活者を守るための一般社団法人『安心と住まいのGメン』を、昨年秋に立ち上げました。今年から本格的に活動を始めます。設立の目的は、増え続ける詐欺や悪徳業者を撲滅し、住む人の生活や人生を考える建築リフォーム業者の仲間のネットワークを構築することです。

YouTube「リフォーム百科事典」を視聴した全国の方から、多くの相談が寄せられます。法外な見積り、ずさんな耐震診断による補強計画、手抜き工事、そして不要な工事の提案。地元で信頼できる業者を紹介して欲しいと言われても、それが叶わない状況もあります。業界の健全化は、真面目な職人が報われる社会にも通じます。

今年一年、変わらぬ信念を持ちつつ、困ったときに一番近くにいる者になれるようスタッフ全員で仕事に励んでいきますので、なにとぞよろしくお願いします。



大規模災害と建築基準法のつながり～懐かしいあの頃～

これまで新築の木造住宅（在来構造の家）は確認申請を簡略化していいという制度（4号特例）がありましたが、今年4月から法律が改正され、新築では大きな影響を受けます。リフォームに関しては階段の架け替え（既存の階段を壊して、新たに段数を増やす等の工事）、屋根の大規模な改修の際などを工事する際には建築申請が必要になります。これに伴い、工事検討から工事開始までの時間が以前よりもかかるようになる可能性がありますのでご注意ください。

法律の変遷と地震との関係

日本ではこれまで大地震に度々見舞われてきました。地震と建物に関わる法律は密接な関係にあります。歴史に思いを馳せ、建築に関わるものとして未来に何を残せるか、考えてみたいと思います。

日本で最初の建築法規は 1919 年に制定され、今の建築基準法になったのが 1950 年です。それから 75 年後の今年「省エネ基準への適合義務化」及び「建築確認・検査や審査省略制度の対象範囲の見直し」が行われる予定です。建築基準法はこれまで大地震や耐震基準偽装事件（世間を揺るがした姉齒事件です）など世の中が大きく変わるたびに、改正されてきました。

1978 年宮城県沖地震→1981 年新耐震設計と建築基準法令の大改正

宮城県沖地震の教訓を受けて、昭和 56 年（1981 年）に基準法が改正され地震のエネルギーに負けないように壁量を増やすこと、筋交いの量が 3 割増しの基準になりました。今でもこの基準は変わっていません。1981 年以前の家は旧耐震と呼ばれるのは、この筋交いの量が少ない基準の家だからです。現在の耐震基準に比べて 3 割劣っています。



2025 年施行の法改正について、詳しくは左記 QR コードをご覧ください。

1995 年阪神・淡路大震災→2000 年住宅品質確保促進法

壁量は変わらず、これまでの部分的な基礎（ローソク基礎）から建物の全体を覆う基礎（ベタ基礎）にすることが明記されました。筋交いや金物を使用することも明記されました。

2005 年構造計算書偽造事件（姉齒事件）→2007 年建築基準法・建築士法改正

建築士の専門性や構造計算の重要性が問われました。法律だけが先走り、計算ソフトが無いと構造計算が出来ず、役所の審査も出来ないために、新築工事が長期間ストップする事態となり、多くの建築会社や不動産業者が廃業しました。

戦後、高度成長期に多くの住宅が必要になり、建築基準法が制定されてから、75 年が経ちました。現在のお住まいがどの法律の時期に建てられたかにより、建築様式や筋交いの入り方が違います。築 50 年の家でも状態や改修の方法によって、愛着をもって思い出と共に長く住み続けることができるのではないのでしょうか。（大谷）



時代で変化する建築様式

